

(セミナー名称)		
2020年度第3回山形県がん化学療法セミナー		
担当者氏名：富岡佳久		所属：大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野
内線： (795)6851	e-mail：	
1. 計画の名称		
2020年度第3回山形県がん化学療法セミナー		
2. 関連分野		
がん化学療法		
3. 実施報告		
<p>2021年2月20日(土)に2020年度第3回山形県がん化学療法セミナーを実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により本年度セミナーは3回の開催、Web形式での実施となった。</p> <p>一般講演として、山形県立中央病院 緩和ケアセンター 緩和ケア認定看護師 安孫子さとみ先生から「当院緩和ケアセンターの役割と緩和ケア認定看護師としての活動」と題してご講演頂いた。また、特別講演では、山形大学医学部附属病院 疼痛緩和内科科長 山川真由美先生から「がんの痛みの治療 どう使う？オピオイド鎮痛薬」と題し、ご講演頂いた。</p>		
4. 実施年月日・実施担当者・参加人数		
<p>2021年2月20日(日)</p> <p>東北大学 大学院薬学研究科 がん化学療法薬学分野 教授 富岡佳久</p> <p>39名が参加</p>		
5. 所要経費		
支出簿参照		
6. 成果		
<p>一般講演では、山形県立中央病院 緩和ケアセンター 安孫子さとみ先生から「当院緩和ケアセンターの役割と緩和ケア認定看護師としての活動」と題し、勤務されている緩和ケアセンターの取り組みや緩和ケアチーム、緩和ケア病棟についてお話し頂き、その中で緩和ケア認定看護師としての活動・取り組みについてご講演頂いた。入院や外来を問わない緩和ケア活動、地域連携・院内連携に関するセンターの取り組みを紹介頂いた。緩和ケアの領域に限らずチームで活動する中で連携の重要性、緩和ケア認定看護師として指導や相談などチームを支える存在として多岐にわたる役割をご講演いただいた。</p> <p>特別講演では、山形大学医学部附属病院疼痛緩和内科科長山川真由美先生から「がんの痛みの治療 どう使う？オピオイド鎮痛薬」と題し、痛みの評価や治療方針について実症例も含めてご講演いただいた。患者にしかわからない痛みや治療効果を適切に評価するため、患者からの訴えを傾聴する医療者側の傾聴時のポイントについてアドバイス頂いた。オピオイド鎮痛薬を用いた治療として、タイトレーションやレスキューなど患</p>		

者にしかわからない痛み対応について解説いただいた。その中で時に医療者側の説明を歪曲して解釈しケミカルコーピングとなることがあるため、患者自身が理解できるよう繰り返し指導し笹あえて行く重要性についてご講演いただいた。

チームとしての活動や患者との良好な信頼関係を築いていくためにもコミュニケーション力を日々磨いていく必要性を実感したセミナーであった。